

令和２年度第２回池田市行財政改革推進委員会 議事要旨

【と き】 令和２年１０月１日（木） 午前１０時００分～午前１０時４５分

【ところ】 池田市役所 ３階 議会会議室

【出席者】

■委 員：中川会長、村瀬副会長、蒲生委員、川北委員、井尻委員、村上委員、牛嶋委員

■事務局：衛門総合政策部長、石田総務部長、森本総合政策部次長兼財政課長、
藤井総務部次長兼人事課長、檜垣行財政改革推進課長、
行財政改革推進課河北主幹、行財政改革推進課奥田主事

【傍聴者】 ０名

【内 容】

１）開会

＝事務局から配付資料の確認＝

２）議事

＝質疑応答（抄録）＝

委員：皆さんの意見が反映されて概ねよかった。指定管理者制度のことが自分でもよく理解できなかったのもう少し勉強したい。

委員：職員のみなさんが努力して作られており、いいと思う。

委員：前回私の言った「働き方改革」の部分も意見書に反映されており、ぜひ取り組んでほしい。全体的に見て達成されている取組が非常に多いが、これでよしとせず何か一つでも毎年向上できるように進めてほしい。

委員：会議での内容を反映されておりよくまとまっていた意見書（案）である。以下は感想だが、委員会での話し合いの際、具体的な数字にひっかかりがない自分自身にとっても気になっていた。その理由一つとして、以前の推進プランであれば、財政調整基金の残高に対して具体的に「クリーンセンターや新たな給食センターの整備にいくらか予算が必要」という報告があり、額面上は基金残高があっても市財政は予断を許さない状況であることが分かったのだが、最近のプランでは残高の表が出るだけである。来年度以降、いま整備途中の公園の計画に見込まれる費用や、敬老会館整備に関わる予算の見積なども説明を加えてもらえるとより丁寧かと思う。

委員：意見書（案）についてはこちらでいいと思う。

委員：意見書（案）は前回の議論の内容がわかりやすくまとまっているが、（２）の２行目の「アウトカム」という横文字について、ご高齢の方だとなじみにくいと思うので、誰でもわかるように「効果」や「成果」といった日本語に置き換えてはどうか。プランⅢの最終報告（案）も、前回の案よりも非常によくなったと感じている。しかし元年度の目標が具体性に欠けた取組について、備考欄で次年度の数字を挙げるなどの工夫はよくわかったが、例えば P7 の「ふくまる教志塾の Facebook フォロワーの増加」の取組では、令和元年度の実績 26 名に対し、備考欄で掲げる次年度の目標が 30 名となっており、これは恐らく担当課の問題で「4 名増やすのも至難の業」ということであれば仕方がないが、数値が具体化されたとはいえ目標はこれでいいのかと感じた。

委員：それではいまご指摘の「アウトカム」について、一般的にわかりにくいかもしれないということで、「アウトカム（達成成果）」としましょうか。

事務局：承知した。

＝意見書（案）を修正＝

＝意見書（案）を「令和元年度における池田市行財政改革推進プランⅢの取組状況に関する意見書」として確定＝

委員：せっかくの機会ですので今後に向けてのご意見等順番をお願いします。

委員：阪急駅前にあるゲストインフォメーションと観光案内所が閉じたままであり、今後どうなっていくのか見ていきたい。議会で指定管理者か第三セクターが呼ばれたと知り、個人的に興味を持っていきたいが、私自身が条例等を理解できていないのがネックだと感じている。

委員：自分はこの会議で能力不足だと感じている。

委員：先日議会を傍聴した際に議員からも発言があったが、池田駅前のゲストインフォメーションについて、どうやっていくかはっきりさせる必要があると思う。今回私も池田のことをもっと知らなければと感じたので、皆さんの意識・認識のレベルもアップすると思うので勉強会などがあればぜひ参加したい。

委員：私も駅前の観光案内所のことが大変気になっていた。今でも池田に来てくださる方は少なくともおられ、またこんな時にも来てくださる方を大事にするという意味では、ただ「閉鎖中」という掲示だけではなく、デジタルサイネージ等で「落ち着いたらもう一度来てください。お待ちしております」という、もう少し積極的なメッセージがあってもいいのではと感じた。

また来年のオリンピックの際には聖火リレーが池田市を通る予定であり、確か箕面市はコカ・コーラと組んで沿道の方たちと応援する企画があったと思うが、池田市も大きな企業とタイアップしたら盛り上がると思う。

最後に移動図書館車が老朽化しており、コストのことを考えると手放すか、ということをお耳にはさんでいたが、コロナ禍に入り図書館から遠い方や年配の方、自動車でなかなか外出されない方々たちにとって、五月丘や消防署の前に来た移動車がいいオアシスになっていたのを私は実際目にした。アナログなものや今まで池田がやってきたものもまだ使える、またこれから必要となる時があると思ったので、刷新するばかりではなく今あるもので今後新しい形で生かせるものがあれば残してほしい。また自分もそういう気持ちで見たいと思った。

委員：総じていい評価であり、改革・改善につながる内容を織り込み取り組んでほしい。

委員：昨年度にも申し上げたが、この委員会自体が報告書（案）の表記に関する意見や議論が中心になっていると思っていたが、会長をはじめ現在の委員の先生のご意見により、今回の意見書では「本来の行革についてこうあるべきだ」ということを示せて非常に良かった。私自身は池田で仕事をしているが市民ではなく、市政の内容について市民委員の方より情報不足なところがある。市政の動き全般についてこれまで以上に関心を持ち勉強していきたい。

委員：委員からの具体的な事例に即したご要望は「行革と直接関係ない」と受け止めずに、そのような感覚を市民サイドに与えている現実があるということ、どういう改善があるのかを事務局から担当部署に伝えていただけるとこの場でご発言する甲斐がある。委員の皆さんはこちらの理解不足、公共経営に対して距離が遠すぎる等と思わず、むしろここで率直にお話することに価値があると思ってぜひお話しください。また次からの新たな着眼点として、現在の行財政改改革は団体自治、行政のコストダウンへ主に焦点を当てているが、地方自治体の持つ自治力の総合力を高めていくためには、もう一方の住民自治がいかに行政施策によって活性化、自立、再生に向かうのかという観点も必要ではないかと思う。行革は今転換期に入り、住民側にも自治体の財政再建や財政自立に向けた活動のあるべき姿を刺激する役割分担を示し、頑張ってもらおうという改革の道筋を示してもいいと思う。

消防などが典型だが、自治体消防には消防本部と消防分団があり、消防分団が高齢化せずに頑張っている自治体は明らかに消火能力・防火能力が高く、消防に関するコストが下がっている。反対に消防分団が無くなっていつている自治体では総合力が落ち、消防に関する経費も上がっている。他の分野でも同様に、地域教育能力や家庭教育能力が高まれば学校教育への負荷は下がるはず。市民は制度福祉や団体福祉に対して関心が高いが、昔は地域福祉があった。そういった住民自治へ着目した行革の指針、また生産能力を上げることへの評価や、地域での住民同士の絆の強さや健康・幸福度の高さ等が評価できるような改革手法を考えていきたいと思う。

＝中川会長から衛門総合政策部長に意見書を手交＝

＝衛門総合政策部長から全委員へ「令和元年度における池田市行財政改革推進プランⅢの取組状況に関する意見書」及びその他ご意見をいただいたことへのお礼の挨拶＝

3) 事務連絡

事務局から今後の予定について説明

4) 補足説明

事務局：市民としてお持ちのご意見や教えてほしいこと等があれば、次回以降事前にいただけると担当課とも調整したうえで行政として資料を出せる範囲でこの会議にてご説明することもできるのでよろしくお願いいたします。

観光案内所と駅前のゲストインフォメーションは、指定管理ではないが委託を受けていた第三セクターが解散したところ。今は閉まっているが、今週頃に次の事業者を選定し、予定通りにいけば10月の初旬頃から再開できるかと思う。コロナの関係で現在観光客は少ないが、なるべく早く再開するべく準備を進めているところ。

オリンピックについて、確か池田市もコカ・コーラとの協賛を行っており、来年も連携する予定。移動図書館は古くコストがかかるが、現在生活様式が変わってきている中で、わたしも今後のあり方について注視したい。

委員：委員会だけではなく次年度以降第1回目会議が始まる前に、例えば地方財政の指標の意味や収入の構造等の勉強会を開く機会がほしい。

5) 閉会

以上